

## 平成26年度 鳥取県中部沿岸土砂管理連絡調整会議 議事概要

日 時：平成26年10月29日（水）午前10時から正午  
場 所：中部総合事務所 B棟2階205会議室  
参加者：別添名簿のとおり

### 1 開会挨拶

（事務局）

- ・より効率的・効果的にサンドリサイクルを実施したいと考えており、今回前浜の目安の検討を行っている。
- ・個別の海岸単位には課題はあると考えるが、新たな展開に向けた動きをしていきたいと思う。

### ■平成25年度協議会意見に対する対応状況

（事務局）

※資料により説明

### 2 議事

（松原教授）

- ・砂浜海岸の保全、利用に関する議論は非常に重要であり、このことについて丁寧な議論ができるのは鳥取県ならではの取組みと考えている。
- ・最近では台風の勢いも強く、また、潮位も今後10cm単位で上がると言われている。勾配が緩い海岸では10cm上がれば砂浜後退への影響も大きい。
- ・海岸災害を考える上でも、背後が大事なところはきちんと防御し、そうでないところはセットバックするような考え方も必要となってくる。
- ・今はまさにそのような入り口（過渡期）にいる状況であり、長期的な視点を持って議論ができればと考える。

#### （1）目安とする浜幅について

（事務局）

※資料に沿って説明

- ・これまではH13年からH15年の汀線を基準に評価してきた。
- ・今回は砂浜を防護施設として捉え、防護、利用、環境の観点から浜幅の目安を検討した。
- ・防護の観点では、県内の海岸横断データを収集し、最も危険側（最小断面）で標準横断を設定し、県の計画堤防高 T.P4.5mを基準に、越波しない浜幅を検討した。
- ・検討の結果25mの浜幅が必要となる。
- ・利用については、国のアンケート調査結果を参考にして、40mを目安として設定した。これはあくまで海水浴利用に係るデータであり、実際には地引網やその他利用も考えられることから、各海岸の特性に応じて設定していただきたいと思う。
- ・40mの背景には駐車場、トイレへの移動の容易性があるようだ。
- ・環境面については定量的な評価が困難であることから、海岸の環境特性を把握した上でサンドリサイクル実施時に配慮することを目標として設定している。
- ・資料に注意書きをしているが今回の検討はあくまで鳥取県内の標準的な断面を想定して設定したものであり、25mを割り込んだからといってすぐにハード対策といった判断にならないようにしていただきたい。
- ・現況に比べてどうかということではなく、目安の浜幅に対するサンドリサイクルを実施したいという思いである。

(松原教授)

- ・利用と防護の設定は各海岸によって当然違ってくるが、これまでと視点を変えて評価するということ  
が大事なことだと思う。
- ・環境について鳥取砂丘では特別保護区であり厳重に管理されている。ボランティア除草も止めた方が  
良いという方もおられ、景観の側面も考えると難しい部分もある。

## (2) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(事務局)

※資料に沿って説明

(黒岩教授)

- ・測量は年2回やっているのか？
- ・目安とする浜幅に対する変動については、短期でみるのではなく通年のデータを使ってみるべきであ  
る。

(事務局)

- ・了解。

(北栄町)

- ・H25年の春に防風柵が倒れた箇所がある。そういうところはT.P4. 5mあるのか。恒久的な対策が  
必要になるのではないかな。

(事務局)

- ・現状の浜幅からの推察になるが4. 5mはあるものと考えられる。

(黒岩教授)

- ・4. 5mというのは計画上の数値か。

(事務局)

- ・そうなります。

(黒岩教授)

- ・より厳密に言えば粒径によっても浜の勾配も変わることから、各海岸で個別議論が必要だと考える。

(事務局)

- ・認識しており、個々に対応していくことになると思う。

(黒岩教授)

- ・放水路は上流からの土砂供給はないのか。

(中部県土河川砂防課)

- ・放水路であり常時の土砂供給はない、河口部の堆積土砂は海岸からの供給であり、月に1、2回サン  
ドリサイクル(除去)を行っている。

(湯梨浜町)

- ・天神川左岸の測量はされている、右岸は測量しないのか。

(空港港湾課)

- ・右岸側は漁港海岸であり、必要があれば管理者で実施していただくことになると思う。

(松原教授)

- ・海岸区域は管理者ということになると思うが、沖側については必要があれば管理者間で協力すること  
も考えてみてはどうか。

(湯梨浜町)

- ・天神川右岸側の漁港海岸の一部の浜が薄くなっており、サンドリサイクル等の調整をお願いしたい。

(中部県土維持管理課)

- ・橋津川については国道9号線直下流で年1、2回浚渫を実施している。
- ・管理者(湯梨浜町)と調整し、効果的な対応をさせていただきたいと思う。

(黒岩教授)

- ・橋津川右岸の No.28 付近は写真で見ると岩礁帯ではないか。資料では汀線の変動があるようになって  
いるが。

(事務局)

- ・作図上の誤りであり修正する。

### (3) 今後の取組 (各施設管理者との意見交換)

#### ■天神川流砂系総合土砂管理計画 (案) について

(倉吉河川国道事務所)

- ・天神川流域の総合土砂管理計画を鳥取大学協力のもと作成中である。
- ・昨年度取りまとめた資料であり作業途中のものであることから取り扱いには注意して欲しい。
- ・土砂の連続性を確保するため、既存ダムのスリット化や土砂の固定化を防ぐことを目的として礫河原  
の再生を目標に掲げる予定。
- ・天神川河口部に洪水時のフラッシュもできず砂州がついているが、未だメカニズムの解明にはいたっ  
ていない状況。
- ・計画策定に当り、地形データの提供等を各管理者にお願いすることになると思うので、ご協力をお願  
いしたい。
- ・計画策定時は改めてご紹介したいと思う。

(松原教授)

- ・土砂移動量を図化しているが、単位は何か。

(倉吉河川国道事務所)

- ・千 m<sup>3</sup> 単位

(事務局)

- ・P17 の記述内容だが、河道管理はどのようなイメージになるのか。

(倉吉河川国道事務所)

- ・樹木管理だけというわけではない。現状をキープするか改善するかということ。

(松原教授)

- ・砂防ダムのスリット化は土砂管理上重要。既存ダムのスリット化をするということであったがどのよ  
うな事業でやるのか。実施可能なのか。

(倉吉河川国道事務所)

- ・砂防ダムについては S10 年代から整備が始まっており、数も相当数になるため事業費も大きくなるが、  
着実にすすめていきたいと思う。

#### ■サンドリサイクルにおける漁協調整について

(中部県土河川砂防課)

- ・どのような場が適切かは別にして、このような会議の内容を一般に広く知ってもらうためにも、一般  
の関係者に意見を聞くような場を設けてはどうか。
- ・中部では、サンドリサイクルの取組みが地元 (漁協等) になかなか理解されないために国にも迷惑を  
かけたことがあり、上記のような場を通じて取組みの意義を広く一般に理解していただきたい。
- ・また、サンドリサイクルの成果を発表する場としても機会を設けたほうがよいと思う。

(松原教授)

- ・情報共有、公開は図るべきであり、漁協等も極めて重要な関係者になると思うがどうか。
- ・皆生では背後に温泉地が立地することから利用者懇談会の場を設けている。その中部版というイメー  
ジになるのでは。

(事務局)

- ・了解。やり方も含めて今後検討したい。

### 3 その他

#### ■簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて

(事務局)

- ・試験工事の実施目的と今年度試験工事の概要を説明。
- ・実用化を目指し、今年度2回の検討委員会（1回目平成26年10月31日開催）が開催される予定であり、詳細は当該委員会で報告される見込み。

(松原教授)

- ・実用化がみえてきたところであると認識している。